

旭川市廃棄物減量等推進審議会 会議録（令和元年度 第4回）

日時	令和元年11月20日（水曜日）午前10時00分～午前11時55分
場所	旭川市職員会館 3階 6号室
出席者	<p>委員 12名          〔菊地登, 栗林賢, 小林渡, 近藤雅子, 佐藤一彦, 篠原泰則, 土井邦由, 成田義勝, 古谷まり子, 三浦礼子, 峯村伸哉, 山田智善〕</p> <p>事務局 14名          〔高田環境部長, 岩崎環境部次長, 渡辺環境部次長, 小池廃棄物政策課長, 上村廃棄物政策課施設整備担当課長, 大竹廃棄物政策課主幹, 松下廃棄物政策課主査, 川口廃棄物政策課主査, 星廃棄物政策課員, 尾崎廃棄物処理課主幹（旭川市廃棄物処分場所長）, 沖村廃棄物処理課長補佐, 鬼柳廃棄物処理課近文清掃工場長, 壺田廃棄物処理課浄化管理係主査, 吉田クリーンセンター所長〕</p>
公開・非公開	公開
傍聴者の数	0人
会議資料	<p>資料1 環境部 令和2年度事業構築の考え方          資料2 新・旭川市ごみ処理・生活排水処理基本計画【改訂版】の中間見直しに係る資料一式</p> <p>このほかに次第, 委員名簿, 座席表を配付。</p>

次第	発言者	発言の要旨
1 開会	事務局	<p>[定刻のため, 開会した。]</p> <p>[8名の委員から欠席の連絡があったことを報告し, 過半数に達しているため会議を開催する旨を報告した。]</p>
2 議事(1) 令和2年度の予算要求に向けた環境部事業構築の考え方について	事務局	ここからの進行については小林会長にお願いする。
	会長	では, 議事(1)「令和2年度の予算要求に向けた環境部事業構築の考え方について」事務局から説明願う。
	事務局	[資料1に基づき説明した。]
	会長	只今の説明に関して意見等あれば発言願う。
	委員	次年度の予算要求に当たって, 今回目新しいものは何かあるか。従来通りを踏襲していく方針か。
	事務局	資料中, 新たな取組と示している項目が次年度に新規で行いたいと考えているものである。予算額的に大きなものとしては一般廃棄物等組成調査が挙げら

次第	発言者	発言の要旨
		れる。これは委託で行うことを予定しており、収集したごみを展開し組成割合等の調査を行うものである。続いて食品ロスに関して示している。食品ロス削減の取組は今年度から始めているが、そもそも旭川市としてのデータがないのではという意見が本審議会からあったことから、データ収集も含めてモニター事業やイベントでセミナーを実施した。食品ロスの削減はどうしても啓発事業が中心となるが、次年度は今年度の事業により蓄積したデータ等を踏まえながら新たな展開ということで、セミナーの実施や啓発冊子の作成を行っていきたい。その他資料には、次期ごみ処理施設・し尿処理施設の整備についての取組等を記載している。
	委員	食品ロスに関するモニター調査とあるが、消費者庁から家庭での食品ロス削減についての具体的な方法が掲載されたパンフレットが出されている。それをそのまま利用して町内会の回覧板などで周知してはどうか。紙代だけで済めば大きく予算はかからないと思う。資料上部にSDGsの目標が記載されており、それと連動する形で消費者庁も動いている。各世帯、個人で取り組める具体案も掲載されており、そのパンフレットを抜粋でも良いので意識啓発ということも含め回覧等をしてみてはどうか。
	事務局	食品ロスは日本を始め、世界的な課題として取組が始まっている。委員の発言のとおり、国においても消費者庁を中心に様々な啓発の情報なども出ている。当然、国からの情報も注視し検討していく。また、旭川市独自の地域性があるのかという部分についても確認しながら、独自でできることがあれば当然取り組んでいきたい。只今の意見についても参考とさせていただきます。
	委員	清掃工場の課題として、電気事業者との系統連系が難しく、余剰電力の利活用方法の検討が必要と記載があるが、これについて説明願う。
	事務局	次期清掃工場整備に関する課題であるが、まず、現在の近文清掃工場も発電をしており、北海道電力の送電網に乗せて電力を売電している。新しい清掃工場には、現清掃工場より大きな発電機を付けることで発電量も現状を上回ることを想定しているが、北海道電力からは上回った分の電力を送電網に乗せることについて、容量が不足しているため難しいという回答を受けている状況である。
	委員	太陽光と蓄電池をセットで家庭にも設置するような時代になっている。次期清掃工場整備の際には、コストは高いと思うが蓄電池の導入も良いと思う。予算との兼ね合いももちろんあるが、多方面でエネルギーの活用を考えた方がいいと思う。
	事務局	次期清掃工場の整備については、活用できるエネルギーは活用していきたいという前提で計画を進めており、今後もそのような方向で整理していく考えである。
	委員	今の質問に関連して、電気事業者との系統連系が難しく余剰電力の利活用方法の検討が必要だとあるが、表現を逆にしてはどうか。まず、余剰電力の利活用方法を検討する、しかし電気事業者との調整が必要になると。ネガティブが先に出てきてポジティブを後にするよりも、文章としては逆の方が良いのではないかと感じた。
	事務局	表現については考えさせていただきます。
	会長	只今の意見は、次期清掃工場の建設の際に最優先事項として考えていかなければならない問題である。せつかくの安定的な電源であり、それを無駄にする

次第	発言者	発言の要旨
		ことはあつてはならないと思う。次期清掃工場の根幹に関わる非常に重要な意見だと思う。
	会長	他に意見等はあるか。
	委員	[特になし]
	会長	本日出された意見を参考にしながら事務局で整理を行い、次年度の予算要求に反映していくということによろしいか。
	委員	[了承]
2 議事 (2) ア 基本計画【改訂版】見直し案(修正版)について	会長	次に、議事(2)「新・旭川市ごみ処理・生活排水処理基本計画【改訂版】の中間見直し」に進む。ア「基本計画【改訂版】見直し案(修正版)について」事務局から説明願う。
	事務局	[資料2に基づき説明した。]
	会長	只今の説明に関して意見等あれば発言願う。
	委員	世界で一番災害の多い国をインターネットで調べたところ、私が閲覧したページでは日本が1位であった。その災害の根源が温暖化であるとも言われている。その辺を市民に周知できるような文言が計画の随所に入っていればかなり意識も変わってくると思う。文言の内容や記載場所は環境部に一任するが、災害が一番多い国だからこそ、こういう考えで各自治体も新しい計画を策定したとわかるような表現にされたい。また、栃木県は海のない県であるが、プラスチックごみゼロに向けた行動をする県として宣言したそうだ。ある意味では海のない旭川市でも、何かそういったことを宣言するくらいの気持ちで市民もわかるようなものが欲しいと思う。
	会長	委員から災害に注目したいという意見があった。この計画見直し案には災害時のごみ処理対策については記載されているが、災害に対応するハード面やソフト面、災害が起きてからのことではなく、これから起こる災害をいかに防ぐかという点について、大きな記述がないように見受けられる。只今の意見を参考とし、何らかの形で審議会の意見として反映できればと思うが、他の委員もよろしいか。
	委員	[了承]
	会長	他に意見等はあるか。
	委員	この見直しが終わり、計画が策定されると市のホームページ等で見えることはできるか。
	事務局	市のホームページで公開する。現行の計画も公開している。
委員	ホームページでの公開のほか、住民センター等で配布されるか。また、必要があるかわからないが、外国人にもわかってもらえるよう、計画の英語版など	

次第	発言者	発言の要旨
		を作るのはいかがか。
	会長	前回会議でも外国人旅行者や留学生の増加に伴い、外国人に対しても周知が必要ではないかという意見もあった。どこまで実施するかは別の話として、そういう検討をしてほしいという意見は貴重だ。
	事務局	委員の発言は計画を広く市民に伝える方法について、もう少し検討してはどうか、という趣旨であると考えている。今後検討し、できるだけ多くの市民に伝える方法を考えたい。
	会長	市の計画は様々あるが、外国語版はあるのか。
	事務局	全ての計画を把握していないが、知る限りにおいて外国語版の計画はない。ごみ分別の手引きは在住外国人向けに外国語版を作成しているが、今回のような計画において外国語版はないと思う。
	会長	他都市の状況を調べてみることも必要かと思う。実際に外国語版の作成を求めているわけではなく、常に外国人が多い自治体ではもしかしたら作成している可能性もあると考えるため、現状を知る意味で情報だけでも仕入れてほしい。
	委員	意見ではなく、参考までに発言する。先日、ベトナムのダナンという街に会議で行ってきた。会議の場では飲み物が入ったリターナブルびんが用意されており、そこからグラスに注いで飲むスタイルであった。ダナンがあるフエ省では今年から学校を含めて公的機関はすべてリターナブルびんを導入したようだ。来年からは広く市民にも普及を進めるとのことであり、フエ省の副知事にリターナブルびんの普及について伺うと、海洋汚染プラスチックの問題に対する運動を展開しているとのことであった。ペットボトルを一切なくす方向で取り組んでいるようだ。
	会長	リサイクルの観点でプラスチックの使用について、どのような取組が必要かという部分に関連すると思うが、なかなか一自治体が取り組むには難しい面もあると思っている。
	委員	議事(1)の事業構築に関連するが、廃プラスチックの問題がある中、生分解性プラスチックで作ったレジ袋がある。値段が高いのでそのレジ袋を導入するスーパーやコンビニ等に補助金を出すことに予算付けが必要ではないかと思うが、いかがか。
	事務局	生分解性プラスチックは特に海洋汚染への対応策として注目されている技術と認識している。報道では、使い捨てのストローを生分解性プラスチックに転換していく世界的な取組が始まっていると聞いた。生分解性プラスチックに関する補助金の予算は持っていないが、そのような意見があったということは受け止める。
	委員	海洋汚染の原因で比率が一番多いのは化学繊維で、次に多いのが自動車のタイヤとのこと。その二つを合わせて全体の60~70%近くを占めているようだ。

次第	発言者	発言の要旨
		<p>今、ストローの話題があったが、化学繊維やタイヤに比べるとそれは微量であって、私たちの認識と実際のデータでは違うようだ。環境部の方で調べ、ターゲットを絞っていった方がいいと思う。それと話が変わるが、ある旭川のプラスチック処理場に函館市から 4,500t の廃プラスチックを受けてもらえないかという話があったと聞いたが、旭川市も廃プラスチックの処理や行き先で問題を抱えていることがあれば教えてほしい。</p>
	事務局	<p>次期清掃工場では廃プラスチック類は燃やすという方向に転換し、エネルギー回収をしていく考えである。その他のプラスチック類でいえば、プラスチック製容器包装やペットボトルは収集してリサイクルルートに乗せている。さらに、あまり量は多くないが拠点回収で硬質プラスチックを集めてリサイクルしている。ただ、現状では大部分の廃プラスチック類は埋立処分となっている。プラスチックの問題は、まさに今注目され始めたところであり、マイクロプラスチックの問題も含め、先程話題に上がった生分解性プラスチック等、プラスチックに対して国レベルで様々な取組が行われていくものと思う。現状旭川市でそういった具体的な取組は行っていないが、何らかの形でプラスチックへの対策に取り組んでいく必要はあると認識している。その部分については資料 2-2 の 62 ページに今後注目されてくるであろう SDGs について、国際的課題への対応という項目を新設し、今後、世界や国のプラスチックに関する動きについて対応できるような作りになっている。</p>
	委員	<p>旭川から何かこういう取組を行っていると言信できればいい。</p>
	委員	<p>次期清掃工場で燃やすプラスチック類はリサイクルルートに乗らないものか。</p>
	事務局	<p>そのとおりである。プラスチック製容器包装やペットボトルはリサイクルすることが前提である。焼却の対象となるものはプラスチック製容器包装ではなく、例えばバケツ等のプラスチック製品である。</p>
	会長	<p>プラスチックを燃やすことで排出される二酸化炭素は、結局、石油由来であることから、それを吸収できるようなものがあれば良いと考えたりもする。現段階では、これから旭川市が採ろうとしている方針が一番良いと思うが、次期清掃工場が稼働を終える頃には現在良いと考えられている方法が古い考えになっている可能性もあるかもしれない。時代によって変わる様々な状況に合わせ、市もできる範囲で良いことをしていくという姿勢を続けてほしい。</p>
	会長	<p>改めて計画の中身を見ると、最初に趣旨や現状の記述があり、さらに新しいごみ処理システム、それから計画の本体として基本理念や基本方針、さらに数値目標が書かれている。特に数値目標というのは、様々な考え方で設定できると思うが、これまでの実績に比べると乖離のある目標数値となっている感がある。ただ、これまでの審議会では、目標というのはあくまでも高いところを目指して取り組むという姿勢の方が良いという意見を踏まえ設定してきているが、このことについて意見等あれば。</p>
	委員	<p>目標はやはり高い方がいいと思う。例えば企業で考えた場合に赤字という目</p>

次第	発言者	発言の要旨
		標は考えない。実際には目標に満たない場合もあるが、目標は高い方がいいと思う。
	会長	では、目標値についてはそのような考えでよろしいか。
	委員	[了承]
	会長	次に、施策の方向性についてはいかがか。
	委員	市の経済部で行っているものづくり支援事業について、環境部との関係はあるか。
	事務局	ものづくりの支援の部分で経済部との関係はないのが現状である。先程、レジ袋の補助金の話があったが、環境部が排出者に補助金を出すことは市内の役割分担の中では違うと感じる。もし行政から補助金を出すことになった場合は経済部からの事業者支援という形であれば可能かと思っている。いずれにしても、部局間の関係は必要だと思っている。
	委員	大手自動車メーカーでは莫大な廃プラスチックが製造過程で出るようだが、そのプラスチックをプレスして線路の踏み切り板として利用しているとのことである。そういった再利用の方法は旭川の企業や高専などで研究できると思う。そういう知恵を出し合うことも必要であり、単に補助金を出すというのは良くないと思う。
	事務局	環境部でゴミを処理する中で抱えている問題を、ものづくりの関係者と情報交換することは必要だろうと思う。できる限り進めていければと思う。
	委員	そうなると街全体がおもしろくなる。
	会長	確かにそういうものが発信できたらいいと思う。高専でも地域に根ざした研究や地域の問題を解決するような取組を意識しなければ、学校としての存在意義について意見をいただくこともある。
	委員	結局、補助金等がもらえないと難しい面もある。
	委員	思いがあれば通じる。
	委員	次期清掃工場での二酸化炭素の排出量予測はしているか。例えば排出される二酸化炭素を旭川市の森林でどのくらい吸収されるかを示すことができれば面白いと思う。
	事務局	委員の発言は次期清掃工場で廃プラスチック類を焼却することによる二酸化炭素排出量の増加についての懸念と思う。次期清掃工場ではエネルギー回収を可能な限り行い、ゴミを燃やして発電することで二酸化炭素の排出量の削減につながるという考え方をしている。
	委員	エネルギーの利用となると、蓄電池のような物も面白いかもしれない。

次第	発言者	発言の要旨
	事務局	太陽光や風力などの再生可能エネルギーは、特に電気として使用するときに変動が大きいので、電気を溜めておくことができる蓄電池が有効だということは非常に言われている。次期清掃工場での余剰電力を運ぶ際に蓄電池を利用するのも一つの選択肢であると思う。電気自動車は大きな蓄電池とも考えられ、停電の際に車から家庭につながることによって家で電気を使うことが可能となり、電気自動車自体を蓄電池として考えると、これから広がりがあるかと思う。様々な事を検討していきたいと思っている。
	委員	次期清掃工場での余剰電力を電気自動車の充電に使うことができれば、例えば、旭川市の公用車を電気自動車に替えて電気を利用するという方法もあるのでは。市で自家消費することも現実的な方法かと思う。
	会長	ごみ処理基本計画については、様々な意見をいただいた。生活排水処理基本計画については、グラフの見直しが主な変更点であったが、何か意見あるか。
	委員	[特になし]
	会長	意見がなければ内容についてはよろしいか。
	委員	[了承]
	会長	最後に、計画全体を通して意見等あるか。
	委員	[特になし]
	会長	本日までの審議会での意見を基に、今後答申書の内容について検討していきたい。審議会での意見は、計画全体の内容に関する意見というよりは、この計画を基に今後施策を展開する際に留意すべき意見が多かった。よって、この基本計画見直し案については本審議会として概ね妥当であると認めてよろしいか。
	委員	[了承]
2 議事 (2) イ 答申書の作成について	会長	次に、イ「答申書の作成について」であるが、只今、計画見直し案全体の内容については妥当であることを審議会として確認した。本審議会でも出された施策の展開等に関する意見については、答申書に附帯意見を添えることで示したいと考えている。答申書原案を私が作成し、それに基づいて次回会議でその内容について審議していきたいと思うがよろしいか。
	事務局	[了承]
2 議事 (3) その他	会長	次に、議事 (3) 「その他」について、本日審議した案件以外に審議事項として何か取り上げる案件があれば発言願う。
	委員	先程から話題に上がっている次期清掃工場に関連する話として、苫小牧で二酸化炭素を地中に埋め、処理していると聞いた。次期清掃工場は工場自体で温室効果ガスを処理するような対策はあるか。また、私の住んでいる地域は毎週

次第	発言者	発言の要旨
		金曜日がプラスチック製容器包装の収集日だが、私自身はリサイクルされるプラスチックだけを排出するが、次期清掃工場ではそれ以外のプラスチック製品を全部焼却処分にしてエネルギーに変えると理解したが間違いないか。
	事務局	次期清掃工場での焼却についてはそのような考え方である。プラスチック製容器包装については現行のとおりリサイクルしていく。
	事務局	苫小牧での話について、知っている範囲で説明する。国で二酸化炭素を地中に埋める実証事業を行っており、今後その経過を見て実用化される段階に入っていくと思われる。その技術が上手くいったと過程しても、次期清掃工場の整備の際に導入することは、時間的に難しいと思う。実用化されてコストも抑えられてくると旭川のような地方でもそのような技術を取り入れて建設していく流れになるだろうが、まだ少し時間がかかる状況だと思う。
	会長	次期清掃工場での焼却に関して、食品や紙類は生物資源ということで、燃やして出た二酸化炭素を再び生物が有機物に変えてくれることからプラスマイナスゼロという考えである。焼却対象として問題に上がるとすれば、石油起源のプラスチック等だろう。ただ、それらを焼却し発電をすることで、火力発電等の他の発電方法による二酸化炭素を少し減らせるという考えで、プラスチックを焼却することが許されるのではないかと理解している。二酸化炭素を減らそうという技術が進んではいるが、すぐに実用化できるようなものは現状ないと思う。そういう技術が開発されれば次々と様々な物に応用していく流れになっていくと思う。プラスチックや二酸化炭素の問題についてはできる限り良い方向に向かう姿勢は重要だと思っている。そのような意見が常に会議に出されると意識することができる。これからもそういった意見をいただきたい。
	委員	苫小牧の件で、二酸化炭素を地中に埋める方法だけでなく、化学反応させて炭酸カルシウムを作る方法も考えているようだ。二酸化炭素を気体ではない形にして製品化する話を聞いたことがある。
	会長	他に意見等はあるか。
	委員	前回の会議で、旭川市の近隣町村とごみ処理について連携していく話があった。旭川市の近隣8町のごみ処理方法について伺いたい。
	事務局	前回会議でも紹介したごみ処理の広域化という考え方である。北海道もごみ処理の広域化計画を作成しており、それを踏まえ旭川市も近隣8町とごみ処理の広域化に関する協議会を持っており、将来、広域化に向かうこととなった場合についても検討しているところである。近隣8町の現在のごみ処理については、美瑛の焼却工場は美瑛町と東神楽町と東川町の3町が一部事務組合という形を取っており、3町のごみを共同で処理している。次に愛別町の焼却施設は愛別町と上川町と比布町と当麻町の4町の組合によりごみを処理している。鷹栖町については焼却施設の老朽化により工場がなく、大部分を愛別町の焼却場に委託して処理している状況である。将来に向かって人口減少も予想されており、昨年度の協議会の中で近隣8町に対し、旭川市と共同でごみを焼却したい希望があれば検討すると呼びかけをし、現状ではそれに対する動きはなかったが、近隣8町との関係を含めて今後も進めていきたいと思っている。
	会長	他に意見等はあるか。



次第	発言者	発言の要旨
	委員	[特になし]
3 閉会	会長	それでは、本日の審議を終了し、進行を事務局に交代する。
	事務局	[事務連絡を行った。]
	事務局	以上で本日の審議会を終了する。